

# 現代日本の青年期の男女における 善悪に関する意識構造と道徳領域判断

## (1)「悪さ」について

A Study on the Sense of Morality in Japan : Difference of judgment in  
adolescent men and women (1) moral bad deeds

阿部洋子

### 問 題

子どもたちの道徳心は、誰がどのように育成していけばよいのだろうか。家庭での躾、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などが重要であろう。しかし、現代の日本の青少年を取り巻く環境は、道徳心を育成するための場としての機能をどの程度、果たしているだろうか。また具体的にどのような機能が失われてしまったのだろうか。

Smetana 等 (1983) は、道徳・社会的慣習・個人のそれぞれの領域に属すると判断された行為を列挙して貰い、続いてそれらの行為は、規則の有無に関わらず、即ち法律による罰則規定の有無に関わらず、「善い／悪い」と思うかの判断を求めた。その結果、19-20 歳以上になれば、道徳領域に属する行為は、75-100%の範囲で、規則や期待の有無に関わらず（「規則随伴性」と称する）、「善い／悪い」と判断することができるようになる。一方、個人領域に属する行為は、88-100%の範囲で、個人の自由に任せる方がよい（「個人決定権」と称する）と判断されると報告している。また、道徳と類似する概念として、社会的慣習があるが、それらの行為は、道徳領域に属する行為における、規則随伴性と善悪の判断の間に見られる強い関係性は見出せなかった。つまり、Turiel (1983) が述べるように、道徳領域と社会的慣習領域は、異なる行為として認識されていると結論づけている。

これまでも予備的調査を実施（阿部；1996、1998、2005）し、現代の日本における道徳構造の特徴を、領域判断、悪さの程度、社会的文脈などから検討してきた。前回の報告（阿部；2007）では、青年期女子を対象としたが、今回は、青年期男女を対象とし、善悪両方の行為について調査を実施し、性差について比較検討を試みた。なお紙数の関係で、今回の結果報告は「悪さ」についてのみを行う。次回は「善さ」についての報告を行う予定である。

## 方 法

### 1. 調査対象者および調査の実施方法

調査期日：2008年10月1日～30日

調査対象者：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、最終的に251名（男子：92名、女子：159名）を分析の対象とした。

### 2. 質問紙の構成

#### 1) 道徳性尺度（悪さ）<sup>注1</sup>

選定された行為は、大学生86名に対して、法律で罰せられるか否かに関わらず、「道徳的でないと思われる行為」、「道徳的に好ましくないと思われる行為」について、各人が10項目を挙げて貰った結果、抽出されたもので（阿部；1995 未発表）、ニュートラルな状況で、道徳領域に属すると判断される行為であった。こうして抽出された100以上に及ぶ行為について、成人女子を対象に調査を実施した結果、20のクラスターが抽出された（阿部；1996）。その中から、社会的文脈が変わると、道徳領域から社会的慣習あるいは個人領域に、領域判断が変動することが確認された項目（阿部；1998）を中心に38項目が選定された。このようにあえて判断が揺れる、不安定な行為について、青年期の男女において、どのような判断の特徴が見られるかを、以下の側面について検討したいと考えた。

- ①「悪さ」の程度： 選定された38項目について、どの程度悪いと感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で1点刻みで評定を求めた（非常に悪い：10点～全く悪くない：0点）。
- ②当為性： 選定された38項目について、その行為は「絶対にすべきではない：5点～しても全く構わない。何故してはいけないのか、理由がわからない：0点」の5段階尺度で評定を求めた。
- ③領域判断： 選定された38項目について、その行為を規制するルールは、「道徳」、「社会的

---

注1） 実際には「道徳性尺度（善さ）」も実施しているが、今回の報告では割愛した。

慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれか1つを選択するように求めた。

- ④行為の重要性： 選定された38項目について、それらの行為の重要性について、どのように感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で1点刻みで評定を求めた（非常に悪い：10点～全く悪くない：0点）。

## 2) 自己抑制尺度<sup>注2</sup>

道徳性尺度（悪さ・善さ）により測定された結果の妥当性を検証するためには、日常生活における行動の自己評定および他者評定との相関を見ることが重要である。しかし、授業での関わりしか持たない調査対象者について、これらの情報を得ることは困難である。したがって次善の策として、道徳性と関係が深いと考えられる「社会性の発達の良好さ」、「責任感」、「真面目さ」等について測定した結果が、日常生活における行動評定との間で相関が見られるとされ、信頼性、妥当性ともに検証されている複数の質問紙から、いくつかの項目を選定し、それらの結果との相関を見ることにした。但し、これらの調査用紙の対象者は一般的に年齢が低いことや、意見を問うものと事実を問うものが渾然一体となっていることなども問題点がある。

そこで、「予備的調査」（阿部；1998）で用いた70項目を元に、前回の調査（阿部；2007）でも項目水準での高い信頼性を得られた「自己信頼に基づく独立心・自立心」、「他者からの高い評価」、「決めたことをやり遂げる意志力・克己心」、「自己開示」の21項目を用いることにした。なお、この尺度の中に「虚偽性」（以下、L項目と称する）に関する4項目を加え、合計25項目を用いることにした。評定は、それらの行為が日常の自分の行動に、どの程度当てはまるかにについて5段階評定法を用い、回答を求めた（非常にそうである（はい）：5点～全くそうでない（いいえ）：1点）。合計得点を「自己抑制尺度得点」とし、合計得点が高いことをもって「自己を律する能力」が高いと考えた。

## 結 果

### 1. 「虚偽項目（L項目）」の検討

「自己抑制尺度」25項目の中に組み込んだ「L項目」（①「あなたのまわりに、嫌いな人は一

---

注2) 紙数の関係で、詳細については後日に譲る。前回の調査結果（2007）でもGP分析、クロンバックの $\alpha$ 係数などから、項目水準で高い信頼性が確認されている。また、因子構造は、L項目を除く21項目において、第1因子「意志力・克己心、決めたことをやり遂げる」、第2因子「自己開示」、第3因子「独立心・自立心」、第4因子「他者からの高い評価」が求められた。

人もいませんか」、②「あなたは、その日にすべきことを、やらなかったことは1度もありませんか」、③「あなたは、他人に知られては困るような、良くないことを考えたことは1度もありませんか」、④「あなたは、他人の悪口を言いたくなかったことが1度もありませんか」の総得点は、調査対象者の95%の者が12点以下であり、13点以上の者は13名であった(Me. = 7.28点、SD = 2.93、N = 251人)。そこで、この13名(男子:6名、女子:7名)の回答については「社会的望ましさ」に強く引かれており、信頼性に欠ける可能性が高いと判断し、以下の分析から削除することにした。そのため、これ以降の分析対象者は、238名(男子:86名、女子:152名)<sup>注3</sup>となった。

## 2. 「道徳性尺度(悪さ)」の検討(男子:Table 1、女子:Table 2)

### 1) 「悪さの程度(悪さ)」の検討: GP分析およびクロンバックの $\alpha$ 係数による検討

前回の調査報告(阿部; 2007)にある通り、「道徳性尺度(悪さ)」の38項目についてGP分析を実施した結果、道徳性尺度得点(悪さ)の高得点群(上位25%)と低得点群(下位25%)において、38項目すべての項目で有意差が見られた。またクロンバックの $\alpha$ 係数を算出したところ、全体および各項目に亘り、0.80以上あり、項目水準で高い信頼性が確認された。

### 2) 「悪さの程度」の男女の得点差による検討(t検定による分析)

38項目全体の平均値は、男子では、6.69点(SD=1.33)、女子では、6.85点(SD=1.40)であり、ほぼ同じであったが、38項目中、13項目において男子の方が高得点を示し、25項目において女子の方が高得点を示したことから、全般的に、女子の方が「悪さ」についての感受性が高いという結果が得られた。なお男子の方が高得点を示した項目は「No. 2 ごみなどのポイ捨てをする」、「No. 5 ありがとう、ごめんなさいを言わない」、「No. 8 親不孝をする」、「No. 10 用がなくなったら、世話になった人でも知らん顔をする」、「No. 13 食べ物を粗末にする」、「No. 15 お年寄りに席をゆずらない」、「No. 17 不倫・浮気」、「No. 25 タバコを吸う」、「No. 27 信号無視」、「No. 28 キセル」、「No. 32 授業中におしゃべりする」、「No. 37 仕事をさぼる」、「No. 38 小・中高生の茶髪」であった。

次に、男女の得点差についてt検定を実施したところ、「No. 4 動物を虐待する。ペットを捨てる」(t(236)=2.05, p<0.05)、「No. 6 人工中絶する」(t(236)=2.79, p<0.01)「No. 9 他の人を見める」(t(236)=3.19, p<0.01)、「No. 14 人を精神的に傷つける」(t(236)=3.37, p<0.01)、「No. 18 困っている人を助けない」(t(236)=2.68, p<0.01)、「No. 19 うそのうわさを流す」(t(236)=2.21, p<0.05)、「No. 29 売春、援助交際」(t(236)=3.95, p<0.001)、「No. 31 自殺、自殺未遂」

注3) 男子:平均年齢=21.09歳、SD=3.60、女子:平均年齢=20.21歳、SD=1.49

( $t(236) = 2.80, p < 0.01$ ) の 7 項目については女子の得点が有意に高かった。「No. 32 授業中におしゃべりをする」( $t(236) = 2.70, p < 0.01$ ) の 1 項目は男子の得点が有意に高かった。

### 3) 「悪さの程度」の因子構造による検討

「道徳性尺度(悪さ)」の 38 項目における「悪さの程度」について、男女別に、それぞれ因子分析を実施した(主因子法、プロマックス回転)。その結果、スクリー法により、男女とも 4 因子が抽出されたが、男女において因子構造は異なっていた。

男子では、第 1 因子の固有値が 14.70、寄与率が 38.68% と大きく、「No. 25 タバコを吸う」、「No. 37 仕事をさぼる」、「No. 24 酔っぱらう」、「No. 34 カンニング」、「No. 19 うそのうわさを流す」、「No. 2 ゴミのポイ捨て」、「No. 22 約束を破る」、「No. 33 うそをつく」、「No. 38 小・中学生の茶髪」、「No. 30 子どもを注意しない親の態度」、「No. 26 違法駐車」、「No. 3 人を見下す」、「No. 14 人を精神的に傷つける」、「No. 17 不倫・浮気」、「No. 12 列への割り込み」、「No. 9 いじめる」、「No. 36 悪口を言う」、「No. 32 授業中のおしゃべり」、「No. 27 信号無視」などで、「狡猾さ、卑劣さ」、「交通法規違反」、「喫煙、飲酒」と命名した。悪さの程度の平均得点は、6.65 点であった。

第 2 因子は、「No. 15 電車の中でお年寄りに席をゆずらない」、「No. 35 お年寄りに冷たくする」、「No. 16 電車の中での携帯電話の通話使用」、「No. 11 電車の中で席を詰めて座らない」、「No. 18 困っている人を助けない」、「No. 10 用がなくなったら、世話になった人にでも知らん顔をする」などで、「電車など公共の場でのルール無視」、「お年寄り、他者、物との関係性の軽視」と命名した。悪さの程度の平均得点は、2.46 点であった。

第 3 因子は、「No. 8 親不孝」、「No. 1 万引きする」、「No. 4 動物虐待」、「No. 28 キセル」、「No. 13 食べ物を粗末にする」、「No. 23 児童虐待」、「No. 29 売春、援助交際」、「No. 5 ありがとう、ごめんなさいを言わない」、「No. 20 親の言いつけに従わない」などで、「親子、物との関係性の軽視」、「暴力」と命名した。悪さの程度の平均得点は、2.08 点であった。

第 4 因子は、「No. 7 離婚する」、「No. 6 人工中絶する」、「No. 31 自殺、自殺未遂」、「No. 21 物を大事に使わない」などで、「生命軽視」と命名した。悪さの程度の平均得点は、2.78 点であった。

女子でも、第 1 因子の固有値が 16.57、寄与率が 43.59% と大きく、「No. 9 いじめる」、「No. 23 児童虐待」、「No. 14 人を精神的に傷つける」、「No. 36 他人の悪口を言う」、「No. 10 用がなくなったら、世話になった人にでも知らん顔をする」、「No. 34 カンニング」、「No. 4 動物虐待」、「No. 3 人をバカにする」、「No. 22 約束を破る」、「No. 27 信号無視」、「No. 19 うそのうわさを流す」、「No. 28 キセル」、「No. 29 酔っぱらう」、「No. 37 仕事をさぼる」、「No. 26 違法駐車」、「No. 17 不倫・浮気」、「No. 33 うそをつく」などで、「精神的・肉体的な暴力」、「狡猾さ、卑劣さ」、「交通法規違反」と命名した。悪さの程度の平均得点は、7.58 点であった。

第2因子は、「No.12 列への割り込み」、「No.2 ゴミのポイ捨て」、「No.11 電車の中で席を詰めて座らない」、「No.1 万引きする」、「No.16 電車の中での携帯電話の通話使用」、「No.30 子どもを注意しない親の態度」、「No.13 食べ物を粗末にする」、「No.32 授業中のおしゃべり」などで、「電車など公共の場でのルール無視」と命名した。悪さの程度の平均得点は、7.08点であった。

第3因子は、「No.15 電車の中でお年寄りに席をゆずらない」、「No.35 お年寄りに冷たくする」、「No.8 親不孝」、「No.21 物を大切にしない」、「No.31 自殺、自殺未遂」、「No.20 親の言いつけに従わない」、「No.18 困っている人を助けない」、「No.5 ありがとう、ごめんなさいを言わない」などで、「親、お年寄り、他者、物との関係性の軽視」と命名した。悪さの程度の平均得点は、6.58点であった。

第4因子は、「No.7 離婚する」、「No.6 人工中絶する」、「No.38 小・中学生の茶髪」、「No.24 酔っぱらう」、「No.25 タバコを吸う」などで、「男女の問題」、「喫煙、飲酒」と命名した。悪さの程度の平均得点は、4.44点（SD=0.96）であった。

### 3)「悪さ」の当為性：適合度検定（ $\chi^2$ 検定）による検討

「道徳性尺度（悪さ）」の38項目について、「絶対にすべきではない」から「しても構わない」の5段階評定により、その当為性についての考えを求めたが、集計に当たり、「すべきでない」、「どちらとも言えない」、「しても構わない」の3群に分類し、適合度検定を実施し、回答に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、有意差が見られた項目は1つもなかった。なお、判断が3群に均等にばらついたのは、男子においては、「No.21 物を大事にしない」の1項目、女子においては、「No.38 小・中学生の茶髪」の1項目であった。

次に、回答率の全体傾向について注目して整理したところ、男子においては、「しても構わない」との回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、1項目もなかった。70%未満60%以上になった項目は、「No.22 約束を守らない（62.79%）」の1項目であった。

「すべきでない」との回答が70%以上になった項目は、「No.1（79.07%）、No.2（95.35%）、No.3（76.74%）、No.4（97.67%）、No.5（95.35%）、No.8（86.05%）、No.9（79.07%）、No.10（86.05%）、No.12（83.72%）、No.13（74.42%）、No.14（88.37%）、No.23（97.67%）、No.24（90.70%）、No.27（76.74%）、No.28（88.37%）、No.29（72.09%）、No.30（90.70%）、No.31（72.09%）、No.32（83.72%）、No.37（81.40%）」の20項目であった。

「どちらとも言えない」の回答に偏った項目は、「No.6 人工中絶（62.79%）」、「No.20 親の言いつけに従わない（46.51%）」、「No.25 タバコを吸う（53.49%）」、「No.33 うそをつく（44.19%）」の4項目であった。

次に、女子において、回答率の全体傾向について整理したところ、「しても構わない」との回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は1項目もなかった。70%未満60%以上になった項目は、男子と同様に、「No. 22 約束を守らない (67.11%)」の1項目であった。更にこの項目は、「すべきでない」の回答率が最も低く、8.55%であった。

「すべきでない」との回答が70%以上になった項目は、「No. 1 (80.92%)、No. 2 (99.34%)、No. 3 (82.89%)、No. 4 (97.37%)、No. 5 (100%)、No. 8 (83.55%)、No. 9 (94.74%)、No. 10 (90.79%)、No. 12 (97.37%)、No. 13 (78.29%)、No. 14 (92.11%)、No. 15 (73.03%)、No. 16 (86.84%)、No. 18 (71.05%)、No. 19 (82.89%)、No. 23 (100%)、No. 24 (92.76%)、No. 26 (73.03%)、No. 27 (83.55%)、No. 28 (86.84%)、No. 29 (86.84%)、No. 30 (94.74%)、No. 31 (82.89%)、No. 32 (90.79%)、No. 35 (80.26%)、No. 36 (75.00%)、No. 37 (87.50%)」の27項目であった。

「どちらとも言えない」の回答に偏った項目は、「No. 6 人工中絶 (48.68%)」、「No. 20 親の言いつけをきかない (50.66%)」、「No. 25 タバコを吸う (42.11%)」の3項目で、男子と同様であった。但し、「No. 25」は、「すべきでない」の回答率も40.13%で、ほぼ同率であった。

#### 4) 「悪さ」の領域判断：適合度検定 ( $\chi^2$ 検定) による検討

「道徳性尺度 (悪さ)」の38項目について、それらの行為を規制するルールが、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属するかを判断して貰い、その回答結果について適合度検定を実施し、回答に偏りが見られるかどうかを検討した。

その結果、有意差が見られた項目は1つもなかった。なお、判断が3領域に均等にばらついたのは、男子においては、「No. 5 ありがとう、ごめんなさいを言わない」、「No. 11 電車の座席を詰め合わせて座らない」、「No. 34 カンニングをする」の3項目、女子においては、「No. 11 電車の座席を詰め合わせて座らない」、「No. 13 食べ物を粗末にする」、「No. 15 電車でお年寄りに席をゆずらない」、「No. 30 子どもを注意しない親の態度」の4項目であった。これらを除く、すべての項目においていずれかの領域に偏って判断されることが分かった。

次に、回答率について注目して整理したところ、男子においては、

「道徳」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、「No. 23 児童虐待 (76.74%)」の1項目であった。70%未満60%以上になった項目は、「No. 1 万引き (62.79%)」、「No. 4 動物虐待 (65.12%)」、「No. 8 親を大切にしない (62.79%)」、「No. 14 精神的に人を傷つける (69.77%)」、「No. 35 お年寄りに冷たくする (65.12%)」の5項目であった。

「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目や、70%未満60%以上になった項目は、1項目もなかった。

60%未満50%以上になった項目は、「No. 26 違法駐車 (55.81%)」、「No. 27 信号無視 (58.14%)」

Table1 「悪さの尺度」の結果〔男子〕：因子分析（主因子法、プロマックス回転）

項目 番号	行 為	程度の平 均値	標準偏差	重要性の 平均値	標準偏差	因子No1	因子No2	因子No3	因子No4	
25	タバコを吸う。	5.05	3.46	5.95	2.69	<b>0.83</b>	0.07	-0.44	0.21	
37	仕事をさぼる。無断で休む。	7.49	2.41	6.47	2.72	<b>0.77</b>	0.05	0.24	<b>-0.30</b>	
24	酔っぱらう。	3.02	2.50	4.40	3.24	<b>0.74</b>	0.00	-0.22	0.17	
34	試験のときなどに、カンニングする。	7.51	2.40	5.53	2.69	<b>0.70</b>	0.04	0.26	<b>-0.38</b>	
19	うそのうわさを流す。	6.44	2.62	6.88	2.88	<b>0.66</b>	0.10	0.06	0.12	
2	ゴミ、タバコ、空き缶などのゴミ捨てをする。	7.88	2.13	8.51	1.87	<b>0.63</b>	-0.05	<b>0.32</b>	-0.06	
22	約束を守らない。約束を破る。秘密を守らない。	7.47	2.32	6.58	2.89	<b>0.59</b>	0.25	0.11	0.00	
33	人にうそをつく。	6.05	2.29	7.84	2.23	<b>0.58</b>	0.04	0.09	0.23	
38	小学生・中学生の茶髪。	4.63	3.07	6.70	2.88	<b>0.56</b>	0.27	-0.14	-0.02	
30	電車の中や、公共の場で、自分の子どもが騒いでも注意しない〔その子どもの親の態度〕。	7.81	2.13	5.49	3.01	<b>0.54</b>	0.10	<b>0.35</b>	-0.03	
26	違法駐車。	6.07	2.52	7.30	2.37	<b>0.52</b>	0.19	-0.13	<b>0.47</b>	
3	人をバカにする。見下す。	6.93	2.17	6.42	2.77	<b>0.509</b>	-0.19	<b>0.30</b>	0.17	
14	人を精神的に傷つける。	7.77	1.93	4.84	3.23	<b>0.506</b>	-0.15	<b>0.49</b>	0.10	
17	不倫・浮気。	7.07	2.50	6.51	2.64	<b>0.49</b>	-0.05	0.27	-0.01	
12	列への割り込み。順番を守らない。	6.91	2.55	4.81	2.66	<b>0.44</b>	0.68	-0.07	-0.21	
9	他の人を、いじめる。	7.65	2.10	8.14	1.94	<b>0.434</b>	-0.36	<b>0.428</b>	0.26	
36	他人の悪口を言う。陰口を言う。	6.72	2.66	7.67	2.57	<b>0.408</b>	0.29	0.22	0.12	
32	授業中におしゃべりをする。	6.67	2.41	2.88	2.57	<b>0.406</b>	0.17	0.29	0.02	
27	信号無視。	7.28	2.46	7.72	2.22	<b>0.393</b>	<b>0.390</b>	0.16	0.06	
15	電車などで、お年寄りに席をゆずらない。	6.63	2.52	4.91	3.68	-0.03	<b>0.87</b>	0.07	-0.23	
35	お年寄りに冷たくする。やさしくない。	7.07	2.36	6.21	2.82	-0.11	<b>0.76</b>	0.23	0.13	
16	電車の中で、携帯電話で声を出して話をする〔緊急時や自分1人しか乗っていない場合を除く〕。	6.47	2.63	5.79	2.65	0.05	<b>0.71</b>	0.23	0.03	
11	電車の座席を詰め合わせて座らない。1人以上の席を取る。	5.77	2.45	7.51	3.29	0.14	<b>0.70</b>	0.05	0.03	
18	困っている人を助けない。	6.05	2.61	6.51	3.12	-0.05	<b>0.67</b>	-0.13	<b>0.49</b>	
10	用がなくなったら、世話になった人にも知らん顔する。	7.63	2.18	7.86	1.86	0.02	<b>0.53</b>	<b>0.38</b>	0.00	
8	親を大切にしない。親不孝をする。	7.84	2.17	7.26	2.54	-0.29	0.25	<b>0.78</b>	0.07	
1	万引きする。	8.58	1.50	6.53	2.95	-0.19	0.13	<b>0.70</b>	0.29	
4	動物を虐待する。ペットを捨てる。	8.74	1.54	8.19	2.27	0.11	-0.04	<b>0.61</b>	-0.09	
28	キセル(所定の料金を支払わずに乗車する)。	7.65	2.13	7.84	2.37	0.28	0.21	<b>0.59</b>	-0.02	
13	食べ物を残したり、粗末にする。	6.67	2.53	9.30	1.21	0.18	0.29	<b>0.57</b>	0.04	
23	児童虐待。子どもに暴力を振るう。	9.28	1.11	8.72	1.73	0.03	0.27	<b>0.484</b>	0.05	
29	売春。援助交際。	6.93	2.65	6.33	2.68	0.14	-0.06	<b>0.480</b>	0.41	
5	「ありがとう」「ごめんなさい」を言わない。	7.00	2.58	6.49	3.00	0.21	0.21	<b>0.45</b>	0.05	
20	親の言いつけに従わない。	4.86	2.54	6.93	2.42	0.18	0.19	<b>0.41</b>	0.23	
7	離婚する。	3.70	2.75	7.00	2.87	0.24	-0.20	0.10	<b>0.77</b>	
6	人工中絶をする。	5.28	2.40	6.23	2.73	-0.09	0.24	0.05	<b>0.63</b>	
31	自殺。自殺未遂。	6.72	3.40	4.70	3.09	-0.08	-0.13	<b>0.30</b>	<b>0.62</b>	
21	物を大事にしない。修理しないで、新品に買い換える。	4.86	2.58	6.70	2.72	0.15	<b>0.48</b>	0.02	<b>0.50</b>	
						因子No1	1.00			
						因子No2	0.40	1.00		
						因子No3	0.35	0.29	1.00	
						因子No4	0.25	0.20	0.08	1.00



Table2 「悪さの尺度」の結果〔女子〕：因子分析（主因子法、プロマックス回転）

項目 番号	行 為	程度の平 均値	標準偏差	重要性の 平均値	標準偏差	因子No1	因子No2	因子No3	因子No4	
9	他の人を、いじめる。	8.47	1.78	8.58	1.71	<b>0.73</b>	-0.01	-0.02	0.01	
23	児童虐待。子どもに暴力を振るう。	9.47	1.12	9.49	1.16	<b>0.68</b>	-0.01	0.07	-0.10	
14	人を精神的に傷つける。	8.54	1.54	8.51	1.65	<b>0.63</b>	0.02	0.15	0.00	
36	他人の悪口を言う。陰口を言う。	6.96	2.19	7.11	2.16	<b>0.59</b>	0.13	0.08	0.16	
10	用がなくなったら、世話になった人にも知らん顔する。	7.45	1.90	7.38	2.03	<b>0.56</b>	-0.11	<b>0.37</b>	-0.01	
34	試験のときなどに、カンニングする。	7.53	2.26	7.61	2.33	<b>0.55</b>	0.11	0.22	0.10	
4	動物を虐待する。ペットを捨てる。	9.14	1.34	9.17	1.38	<b>0.54</b>	<b>0.35</b>	-0.16	0.00	
3	人をバカにする。見下す。	7.32	2.00	7.61	2.08	<b>0.501</b>	0.21	0.02	0.14	
22	約束を守らない。約束を破る。秘密を守らない。	7.53	2.06	7.62	2.13	<b>0.499</b>	0.19	<b>0.33</b>	-0.20	
27	信号無視。	6.97	2.48	7.02	2.56	<b>0.493</b>	0.22	0.16	-0.03	
19	うそのうさを流す。	7.16	2.25	7.07	2.20	<b>0.490</b>	0.12	0.29	-0.06	
28	キセル(所定の料金を支払わずに乗車する)。	7.39	2.37	7.18	2.53	<b>0.4871</b>	0.27	-0.08	0.23	
29	売春。援助交際。	8.17	2.11	8.22	2.07	<b>0.4869</b>	-0.09	0.04	<b>0.48</b>	
37	仕事をさぼる。無断で休む。	7.43	2.20	7.58	2.18	<b>0.47</b>	0.29	0.08	0.00	
26	違法駐車。	6.36	2.40	6.43	2.35	<b>0.41</b>	0.26	0.18	0.15	
17	不倫・浮気。	6.78	2.38	6.66	2.51	<b>0.38</b>	0.02	-0.06	<b>0.34</b>	
33	人にうそをつく。	6.11	2.30	6.21	2.46	<b>0.33</b>	0.07	<b>0.310</b>	<b>0.312</b>	
12	列への割り込み。順番を守らない。	6.97	2.06	6.72	2.15	0.19	<b>0.783</b>	-0.05	-0.06	
2	ゴミ、タバコ、空き缶などのポイ捨てをする。	7.66	1.75	7.87	1.83	0.11	<b>0.778</b>	-0.15	0.04	
11	電車の座席を詰め合わせて座らない。1人以上の席を取る。	6.18	2.12	6.00	2.23	-0.09	<b>0.72</b>	0.19	0.00	
1	万引きする。	8.89	1.30	9.01	1.47	<b>0.34</b>	<b>0.52</b>	-0.22	0.06	
16	電車の中で、携帯電話で声を出して話をする〔緊急時や自分1人しか乗っていない場合を除く〕。	6.70	2.15	6.72	2.14	0.05	<b>0.51</b>	<b>0.41</b>	-0.18	
30	電車の中や、公共の場で、自分の子どもが騒いでも注意しない〔その子どもの親の態度〕。	7.82	1.99	8.01	1.83	<b>0.31</b>	<b>0.46</b>	0.13	0.01	
13	食べ物を残したり、粗末にする。	6.63	2.15	6.75	2.14	0.17	<b>0.42</b>	0.24	0.02	
32	授業中におしゃべりをする。	5.83	2.26	6.04	2.38	0.20	<b>0.39</b>	0.21	0.09	
15	電車などで、お年寄りに席をゆずらない。	6.51	2.04	6.55	2.11	-0.01	0.08	<b>0.79</b>	-0.03	
35	お年寄りに冷たくする。やさしくない。	7.11	2.15	7.25	2.13	<b>0.34</b>	-0.10	<b>0.66</b>	0.09	
8	親を大切にしない。親不孝をする。	7.54	2.01	7.75	2.01	0.22	-0.08	<b>0.61</b>	-0.09	
21	物を大事にしない。修理しないで、新品に買い換える。	5.07	2.24	5.30	2.38	0.19	0.08	<b>0.57</b>	0.07	
31	自殺。自殺未遂。	7.87	2.80	8.54	2.31	0.03	-0.28	<b>0.56</b>	<b>0.32</b>	
20	親の言いつけに従わない。	4.94	2.17	5.18	2.25	-0.04	0.13	<b>0.54</b>	0.22	
18	困っている人を助けない。	6.81	1.75	6.94	1.95	0.22	0.17	<b>0.49</b>	0.02	
5	「ありがとう」「ごめんなさい」を言わない。	6.80	2.19	7.37	2.06	0.17	<b>0.34</b>	<b>0.35</b>	-0.11	
7	離婚する。	3.99	2.39	4.59	2.70	-0.07	0.13	-0.06	<b>0.72</b>	
6	人工中絶をする。	6.20	2.47	6.91	2.56	0.19	-0.20	-0.01	<b>0.59</b>	
38	小学生・中学生の茶髪。	4.45	2.67	4.51	2.74	-0.04	0.12	0.28	<b>0.48</b>	
24	酔っぱらう。	3.30	2.42	3.49	2.51	<b>-0.30</b>	<b>0.31</b>	<b>0.37</b>	<b>0.39</b>	
25	タバコを吸う。	4.23	2.83	4.64	2.96	-0.16	<b>0.320</b>	<b>0.325</b>	<b>0.36</b>	
						因子No1	1.00			
						因子No2	0.54	1.00		
						因子No3	0.56	0.52	1.00	
						因子No4	0.37	0.35	0.42	1.00

の2項目であった。但し「No.26」においては、「道徳領域」と判断した比率が37.21%と比較的高かった。

「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、「No.24 酔っぱらう (81.40%)」の1項目のみであった。

70%未満60%以上になった項目は、「No.7 離婚 (67.44%)」、「No.17 不倫・浮気 (60.47%)」、「No.20 親の言いつけに従わない (65.12%)」、「No.21 物を大切にしない (67.44%)」、「No.25 タバコを吸う (69.77%)」、「No.36 悪口を言う (60.47%)」の6項目であった。

次に、女子において、回答率について整理したところ、

「道徳」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、「No.1 万引き (76.32%)」、「No.4 動物虐待 (77.63%)」、「No.9 いじめる (74.34%)」、「No.14 精神的に人を傷つける (77.63%)」、「No.23 児童虐待 (84.87%)」の5項目であった。70%未満60%以上になった項目は、1項目もなかった。

「社会的慣習」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目および70%未満60%以上になった項目は、1項目もなかった。

60%未満50%以上になった項目は、「No.16 違法駐車 (53.29%)」、「No.26 信号無視 (51.97%)」の2項目であった。

「個人」と領域判断された回答率が最も高く、その比率が70%以上になった項目は、「No.7 離婚 (78.95%)」、「No.20 親の言いつけに従わない (75.00%)」、「No.24 酔っぱらう (86.18%)」、「No.25 タバコを吸う (84.21%)」の4項目であった。70%未満60%以上になった項目は、「No.21 物を大切にしない (64.47%)」、「No.38 小・中高生の茶髪 (63.16%)」の2項目であった。

##### 5) 「悪さの重要性」の程度の男女の得点差による検討 (t検定による分析)

重要性の得点において、38項目全体の平均点は、男子では6.62点 (SD=1.31)、女子では6.99点 (SD=1.33) であり、「悪さの程度」の判断とほぼ同じ得点であったが、38項目中、8項目において男子の方が高得点を示し、30項目において女子の方が高得点を示したことから、全般的に、女子の方が「悪さの程度」と同様、「悪さの重要性」についての感受性が高いという結果が得られた。なお男子の方が高得点を示した8項目とは、「No.2 ごみなどのポイ捨てをする」、「No.7 離婚」、「No.8 親不孝をする」、「No.10 用がなくなったら、世話になった人でも知らん顔をする」、「No.22 約束を守らない」、「No.25 タバコを吸う」、「No.28 キセル」、「No.32 授業中にしゃべりする」であった。

次に、男女の得点差についてt検定を実施したところ、「No.3 人をバカにする」(t(236)=3.27,  $p<0.01$ )、「No.4 動物を虐待する。ペットを捨てる」(t(236)=3.09,  $p<0.01$ )、「No.6 人工中絶」(t(236)=3.85,  $p<0.001$ )、「No.9 他の人をいじめる」(t(236)=2.77,  $p<0.01$ )、「No.14 人を精

精神的に傷つける」( $t(236)=3.08, p<0.01$ )、「No. 19 うそのうわさを流す」( $t(236)=2.29, p<0.05$ )、「No. 29 売春、援助交際」( $t(236)=5.03, p<0.001$ )、「No. 31 自殺、自殺未遂」( $t(236)=2.80, p<0.01$ )、「No. 34 カンニング」( $t(236)=2.11, p<0.05$ )の7項目については女子の得点が有意に高かった。男子の得点が有意に高い項目は1項目もなかった。

## 考 察

### 1. 悪さの程度

「悪さの程度」の男女差を検討した結果、全般的に、女子の方が「悪さ」についての感受性が高いことが分かった。 $t$ 検定を用いたところ、「No. 32 授業中のおしゃべり」に関しては男子が有意に高かった。これは男子が、日常的に女子のお喋りに問題を感じている結果を表しているのかもしれない。女子が有意に高かった項目は、虐待やいじめといった「精神的・身体的な暴力」に関する項目、自殺や売春・援助交際といった「自分自身を傷つける行為」に関する項目であった。これは女子の方が、傷つけること、傷つけられることに敏感だと考えられるのではないだろうか。つまり男子における「いじめ」は遊びといじめの境界線が女子より曖昧であるか、あるいは「この程度は、いじめに該当しない」というように、「いじめ」のレベルが高く設定されているのかもしれない。その結果、男子の場合の方が、遊びから「いじめ」へと急激に傾斜していく危険性を孕んでいるのかもしれない。

### 2. 悪さの因子構造

「悪さの程度」について、男女差を検討するために、それぞれについて因子分析を実施した。その結果、男女とも、第1因子の因子負荷量が高いことや、「いじめ」「カンニング」など、「狡猾で、卑劣な行為」とされるものが第1因子に組み込まれることは共通していた。但し、男子では「児童虐待や動物虐待」など「暴力」に関する行為は第3因子に独立して抽出されたが、女子では第1因子として抽出された。これは女子においては「虐待」という行為が、「暴力」として独立したものとして捉えられるのではなく、身体を痛めつけるだけではなく、精神をも痛めつける卑劣な行為として捉えられているということではないだろうか。

次に異なっていたのは、男子においては「お年寄りに対する行為」は「公共の場での関係性やルール」と共に、第2因子として抽出され、女子においては「公共の場でのルール」は第2因子として抽出されたが、「お年寄りに対する行為、親に対する行為」は「感謝するなどの行為」と共に、第3因子として抽出された。これは男子では対人関係、特にお年寄りとの関係は、社会的システムの中で捉え、女子では、情緒的な関係の中で捉えるということなのかもしれない。

ところで「喫煙、飲酒」に関する行為は、男子では第1因子として、暴力的行為として捉えられているようであるが、女子では第4因子の「離婚や人工中絶」などと共に、「男女の問題」として捉えられているようである。これは「喫煙、飲酒」の主体であることが多い男子は、暴力として捉えており、「煙害、酒害」を訴えることが多い女子は、男女差の問題として捉えるという認識の差の表れと考えられるのではないだろうか。

### 3. 当為性

今回実施した調査も、前回の調査結果の報告（阿部；2007）と同様に、ニュートラルな状況で「どのように感じるか、判断するか」と回答を求めるものであった。実際、調査対象者は、各自で、様々な社会的文脈を想像しながら、回答したと考えられる。

さて、「しても構わない行為」であるかの判断された行為で、男女差が見られなかったのは「約束を守らない」という項目であった。これは個人の都合が優先され、約束は破られても致し方ないという日本の現代青年の個人主義の弊害の表われの一つかもしれない。

また、「どちらとも言えない」という判断が最も多かった行為は、男子では「うそをつく（44.19%）」であった。この項目は、女子においては「すべきでない行為」が最も高い比率で選択されたが、その回答率は59.21%と低いものであった。これは「うそをつく」ことがやむを得ないこととして許容され、恥ずかしいこととして自覚されなくなってきたということなのだろうか。あるいは若者たちにおいて、現代の大人社会が「うそを如何に上手につくか」が処世術だ言っているようにと見えているということの表われなのだろうか。

### 4. 領域判断

その行為が「道徳領域」に属する行為だと判断されるかどうかについても男女差が見られた。「親を大切にしない」は、男子では62.79%（悪さの程度：Me. = 7.84点、SD = 2.17）であるが、女子では56.58%（悪さの程度：Me. = 7.54点、SD = 2.01）となった。「お年寄りを大切にしない」は、男子では65.12%（悪さの程度：Me. = 7.07点、SD = 2.36）であるが、女子では57.24%（悪さの程度：Me. = 7.11点、SD = 2.15）となった。先述した通り、悪さの程度の平均値において有意差は見られなかったが、男子の方が、女子に比べ、親との関係、お年寄りとの関係における行為を「道徳領域」の行為だと捉える比率が高くなっている。これを、因子構造と関連させて考えてみると、男子の方が、親との関係性やお年寄りとの関係性を社会システムとして捉えているということから、それらの行為を道徳領域の範疇として捉えているということなのかもしれない。一方、女子では「いじめ」が「道徳領域」として判断される比率が74.34%と高くなっている。男子では53.49%となっており、この領域判断においても、「いじめ」をどのように捉えるかという点で男女差が見られた。道徳領域で判断するということは、女子においては「いじめ」とは「か

らかっている」あるいは「からかわれている」という感覚ではないということになるのではないだろうか。「いじめ」の対策において、男女差を考慮する必要があるのではないかと考えられる。

## 5. 重要性の程度

「悪さの重要性」と「悪さの程度」の得点差は、それほど大きくないことが分かった。しかしこれは同じ内容を測定していると判断してよいのだろうか。男子では、重要性の得点の方が高い項目は31項目、程度の得点が高い項目は7項目であった。女子では、重要性の得点の方が高い項目は19項目、程度の得点が高い項目も19項目と、半々であった。これは、してはいけない重要な行為だと分かっている、悪いことだと分かっているが、それを実行してしまった。そのとき、悪さの程度の方が低いと、やってしまったことを自分自身で許容し易いということになるのである。今後、この点を更に検討する必要があると考える。

## 要 約

埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）の1年生、238名（男子：86名、女子：152名）に対して、道徳に関する様々な行為について、「悪さの程度」、「当為性」、「領域判断」、「重要性の程度」について、質問紙を用いて、留置法で調査を実施した。

悪さの程度の因子構造、当為性、領域判断において、いくつかの点で、男女差が認められた。

親との関係性、お年寄りとの関係性は、男子においては、社会的システムの1つとして捉えられているが、女子においては情緒的な関係性のレベルで捉えられているのではないかと考えられる。社会人としての経験が未熟である大学生を対象としたが、この段階で、既に、対人関係における性差が認められる結果が得られたのではないかと考える。

「いじめ」については、男子では遊びとの境界線が曖昧であるような結果が得られたが、女子では「悪さの程度」の得点が高く、精神を傷つける卑劣な行為であり、「すべきではない」行為として、道徳領域と判断される比率が高いことなどから、「からかった」つもり、「遊び」のつもりということとは、ないことが推測された。「いじめ」への対策には男女差を考慮する必要があるのではないかと考えられる。

なお、重要性の程度と悪さの程度の関連性については、重要性の方が知性のレベル、悪さの程度の方が感性のレベルと関係しているのかもしれない、今後、更に検討が必要だと考えられる。

## 参考文献

- 阿部洋子 1996 道徳性尺度作成の試み——予備的研究—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第6号  
阿部洋子 1998 道徳性尺度作成の試み——予備的研究（3）—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第

8号

阿部洋子 2005 現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論——「道徳性尺度」作成のための予備的調査（2）—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第38号

阿部洋子 2007 現代日本人の青年期女子における善悪に関する意識構造と道徳領域判断 跡見学園女子大学文学部紀要 第40号

Smetana, J. G., Bridgeman, D. L. & Turiel, E. 1983 Differential of domains and prosocial behavior. In D. L. Bridgeman (Ed.), The nature of prosocial development; Interdisciplinary theories and strategies. (pp. 163-183) New York; Academic Press.

Turiel, E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick, J. & Clark-Stewart, K. A. (Eds.), The Development of social understanding. (25-107). New York: Gardner Press.

Turiel, E. 1983 The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge. England: Cambridge.